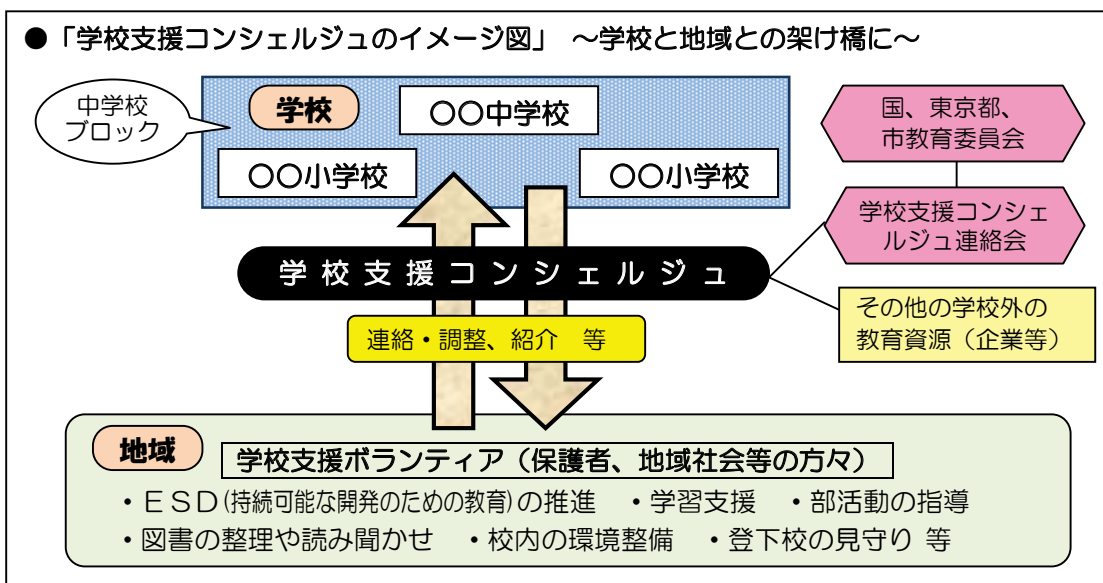


◆事業方針（計画等における位置付け）

未来を担う子供たちを健やかに育むことを目的に、地域住民等のボランティアによる地域全体で学校教育を支援する体制の構築を目指し、中学校区単位で配置した地域を基盤とした教育支援活動等の総合的な調整役を担う者（学校支援コンシェルジュ）を中心にして、学校、家庭、地域が有機的に連携協力し、授業等における学習補助や教員の業務補助、子供の安全確保のための見守り、教育環境の整備等に取り組み、学校を支援する様々な教育支援活動の推進を図る。

◆地域学校協働活動（学校支援活動を含む）の実施体制（特徴・工夫等を含む）

学校支援コンシェルジュは、学校の教育活動の充実に必要な地域、社会の教育資源と学校との橋渡しや連絡・調整の役割、学校の教育活動に対する地域の協力者の確保・登録・配置、活動プログラムの企画等の役割を担っている。



◆運営委員会

運営に当たり、中学校区ごとにブロック会議を実施している。
全ての学校支援コンシェルジュが参加対象の連絡会を年2回実施している。

◆広報活動（パンフレット、HP 活用、広報誌、報告書など）

中学校ブロックごとに、学校支援コンシェルジュの紹介や各中学校ブロックの活動報告を掲載したパンフレットを作成し、地域等に配布している。

◆コーディネーターの育成・交流の機会提供や学校に対する事業理解促進

学校支援コンシェルジュ連絡会において、各ブロックの取組や地域人材に関する情報交換、学校支援のための協議を行っている。

学校支援コンシェルジュに、東京都主催の研修会やフォーラム等の情報を提供し、参加いただいている。

◆成果

学校支援コンシェルジュが、地域人材等を学校に紹介したり、地域と連携した取組をコーディネートしたりすることにより、各学校における教育活動の質の向上が図られた。

また、地域の方との交流を通して、児童・生徒の地域に対する理解や愛着が一層深まった。



着付け体験（日本の伝統・文化の継承）

学校支援コンシェルジュが中学校に講師を紹介

◆課題・展望

新たな地域人材の発掘や、中学校ブロックの枠を超えた一層の連携が課題である。